私は、両親をがんで亡くしている。父は胃がんで六十八歳のとき、母は大腸がんで五十一歳のときに旅立っていった。二人は、「体の不調は気力で治す。」とばかりに、忙しさにかまけ、がん検診はおろか、病院にさえ行かなかった。苦痛に耐え切れず、病院に駆け付けたときには、完全に手遅れであった。

定期的にがん検診を受けていれば、がんは小さく、転移もなく、死なずに済んだと思うと、後悔ばかりが先に立ってしまう。

私もやがてがんになることを、覚悟している。しかし、夫と出会い結婚し、子どもを授かった今、家族を残して死ぬことなどできない。生きるために、愛する人達のために、私は自治体のがん検診を定期的に受けていく。いつまでも家族と一緒にいたいからである。

医療技術が飛躍的に進歩し、がんも治ると言われるようになった。でもやはり、早期発見・早期治療に勝るものはない。がんを予防するための第一歩は、がん検診である。